



アワコガネギク（泡黄金菊） *themum seticuspe*

山野のやや乾いたところに生える多年草。1cm位の小黄花が密集して泡のように咲く様子をふさわしい名前が付けられている。舌状花も頭状花も黄色で冠毛はない。



茎が細く周りの草などにもたれかかるようにして、周りの草花が冬支度に入るところ秋の日差しを浴びて咲く様は、そこだけがスポットライトを浴びているように輝いて見える。

近年は山の木々が大きくなり日差しがさえぎられてきたことにより絶滅の危機に瀕している。高尾グリーン倶楽部では、近傍の地から種子をもらい受け、日当たりのいい地で保護している。

作業体験日誌



にじの会メンズクラブ

35名 2022年11月13日(日)

穏やかな日差しの日、障害のあるメンバーとサポートの学生たちが森づくりに参加、植樹・除伐を熱心に取り組み、丸太切り、弓矢、ミニカー作りなど楽しみました。森の中ではお腹がすくまで頑張れたことに、森の不思議な力を感じていただきました。次回の体験会には、植えたセンダンが背丈を超える程成長した姿で皆さんをお迎えすることでしょう。ぜひ会いに来てください。

お礼の言葉とともに以下のレポートが届きました。

多様で豊かな森林の育成を目指して

にじの会メンズクラブ 大森文恵

高尾の山が紅く染まる頃、私達は森林体験活動を四年ぶりに行いました。メンズクラブは障害のあるメンバーを中心に、彼等をサポートする日本大学ボランティアサークルるびなすの学生と共に活動しており、当日はコロナ以降の再始動ということで歴代の卒業生が大勢応援に集まり盛り上げてくれました。

初めてここを訪れた2015年「メンバー達が木を切るのは難しい、木洩れ日を眺めるだけで充分」と尻込みする私達を、高尾グリーン倶楽部の皆さんが温かく森へ導いてくださいました。その懐の深い対応のおかげでメンバー皆に希望が芽生え今に至っていること、心より感謝しております。



がありがとうございました。

また私どもの活動にご理解をいただき支援くださいました損保ジャパン日本興亜福祉財団へ改めて感謝申し上げます。

今後は、植えた木の成長と共に活動していくことを目標に励んでいこうと思っています。

今回は初挑戦の植林でスタートし、のこぎりを握れば空腹も忘れて黙々と木を切り進み、薄暗かった森は当初の不安を払拭させるがごとく陽光がさして明るくなりました。「僕達が木を切ることが森のためになる」と可能性を信じて少しずつ積み重ねてきた体験が、多くの方々とのチームワークによって実現できたことは仲間全員の大きな喜びとなりました。木工や弓矢にも興味津々で、帰り難いくらい充実した楽しい一日でした。

丁寧にご指導くださった支援員の皆様、あり



川口登山同好会 15人 9月22、23日

山歩きで鍛えられた方々、植樹地づくりのための除伐、作業道の整備がはかどりました。夜は手打ちうどんを作り親睦会。4人の方がグリーン倶楽部に入会しました。



日本山岳会埼玉支部 13人 10月15、16日

センター上の植樹地で下刈り、オニグルミ、ヤマザクラなどの生育状態を観察。近くで除伐、地拵えのあと地元の木の種から育てられたセンダンを植樹しました。



KDDI・都立工芸高校 37人 10月22日

オニグルミ、トチノキなど100本植樹。西尾根歩道付近の除伐。経験豊富な方々、若い高校生で暗い森が一気に明るくなりました。



つくしんぼ保育園 40人 10月28日

高尾山口駅から四辻を經由して草戸山でお弁当、元気にセンターに到着。木工作業、川遊び。

グループごとに色分けしたTシャツがかわいらしい、園児が染めたとのこと。

夕ご飯を食べ、6時ころ暗い林道を竹亭駐車場へと帰っていききました。



日野4中おやじの会 31人 11月3日

イタヤカエデなど30本植樹、除伐。昼はバーベキューを楽しみました。



墨田区立中和小学校5年生 59名 11月17日

社会科の授業で森林体験学習は3年目を迎え、お姉さんが2年前に来ましたという女生徒もいました。

ヤマグリ、コナラ等植樹。除伐、木工作業、川遊び、弓矢。除伐で切り取った青竹、小さなポリ袋に集めたミヤマフユイチゴをお土産に、バスの待つ竹亭駐車場へと元気に帰っていききました。



森づくりフォーラム主催

初心者体験会 12月18日

イロハカエデ植樹、除伐、玉ねぎの皮で草木染を体験。



新人の抱負

新会員です
よろしく

横井 秀幸

皆様、こんにちは。私は、鹿児島県の屋久島出身で横井秀幸と申します。今年3月で定年を迎え、4月からはKDDIの嘱託社員として勤めています。

さて、高尾グリーン倶楽部への入会動機ですが、6月に開催された「KDDI第22回高尾山環境保全活動」に参加した際、もっと山に親しみ、山でのいろんな仕事を憶えたいと思ったことがきっかけです。

8月から月1回ペースで開催されたチェーンソー講習も無事終了することができました。その節は、ご指導いただいた先生方、一緒に受講した皆様、ありがとうございました。教えていただいたことを活かして、無理なく、怪我無く、和気あいあいと活動できればいいなと考えています。皆さま、どうぞよろしくお願ひします。



島岡 泰生

私は八王子に住んでいます。勤務するKDDI高尾山環境保全活動に参加しました。ボランティア活動となめていたのですが、道なき道を作業場まで登っていくのに息も絶え絶え、同行のきこり達は、重いチェーンソーを担いで平気な顔をして登っていくのにびっくりしました。春秋数回参加してきましたが、今年度で退職となるので高尾グリーン倶楽部で活動したいと思い入会しました。チェーンソー講習にも参加し、少しずつですが森づくりの活動に参加させていただきたいと思います。

筒井 美和子、相沢 重夫、藤田 弘子

10月から高尾グリーン倶楽部に川口の友人と入会しました。温厚で冷静な相沢さんと、容姿も心もホックリし誰からも愛されている藤田さんは3児の母親です。そして私が、山と人が大好きな筒井です。三人の共通点は食べることです。これから皆様と一緒に山の斜面で、慣れない鋸で伐採し、絡まりついたツルを力いっぱい取り除き汗を流して作業し、コナラやカエデの広葉樹の中で小鳥たちの鳴き声に耳を傾け、青紫色のコアジサイの香りに包まれ、秋は幼児の手のようなモミジが空いっぱいに赤や黄色が埋め尽くす光景を夢見て、地味な森づくりに参加したいと思う三人です。子供たちと遊びながら学べる豊かな広葉樹林を夢見ています。

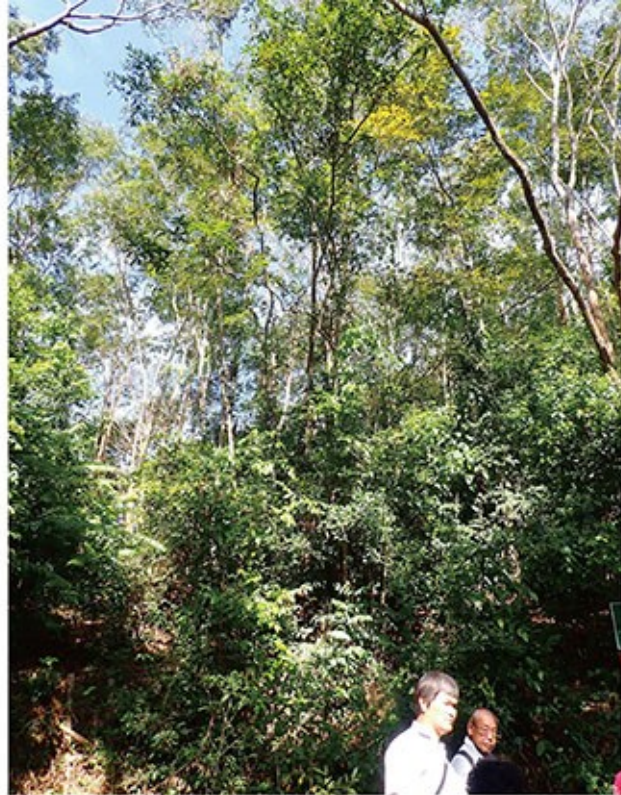


増田 修

G倶楽部のメンバー柴崎さんに紹介されて何度か除伐作業に参加させていただきました。これまで、趣味の山歩きを楽しみ山岳会に所属し自然保護委員会の活動を通じて全国各地の山林の荒廃、植林作業の実情を講演会・講習会参加などで見聞きしておりましたが、実際の作業にかかわったのは当クラブが最初でした。2～3年後、10年後を楽しみにしたいと思いますが、見ることができることや>>>

数年前に体調を崩し、加齢も重なり体力回復には程遠い状況です。

知識情報先行ですが、山の再生活動には人一倍関心があることを自負しております。新参者ですが皆様のご指導をよろしくお願ひいたします。



ラオスプロジェクトが再開 龍久仁人

コロナで一時中断していたラオスプロジェクトが再スタートしました。

会では2017年度からラオス国ビエンチャン県バンビエン地区の焼畑跡地を対象に、ラオス国森林研修センター（FTC）をカウンターパートとして、「ラオスー日本 友好の森展示林造成事業」を実施してきました。以前の承継プロジェクトを通算すると、約10年間で32ヘクタール、37,500本の植樹と12ヘクタールの間伐を行いました。造成した展示林44ヘクタールの広大な熱帯林は、いま着実に再生しつつあります。その後継事業として2020年度から、民間による地域の植林意欲を高めることを狙いとした「ラオス国における『村民の森』保全促進事業」を国土緑化推進機構の助成を受け行うことにしていましたが、コロナ禍で渡航が制限され一時中断していました。ようやく渡航が可能になり3年ぶりの再開に向けて現在その準備を進めています。

また、JICAの財政援助による「草の根国際協力事業」について、

2019年3月の採択通知以降、ラオス国の事業承認の手続きを行ってきましたが、これもコロナ禍で遅れましたがようやく10月に承認が下り、JICAとの基本契約も完了してスタートを切ることになりました。この事業は、エコツーリズム事業を新たな地場産業として定着させて、村人の雇用の創出につなげることを目的にしています。このエコツーリズムでは熱帯林の見学だけでなく、植樹や間伐を実体験してもらって熱帯林の再生に寄与していただくこと、また、地元で行っているカジノキから紙を漉いて繊維にして布製品を作ったりするような、森林の林産物を対象にしたものづくり体験を組み込む、などのユニークなツーリズムを目指しています。そのための環境の整備や実施体制の構築を行います。

その打ち合わせと現地調査を行うため、ラオスプロジェクトメンバー5人で11月末にラオスに行ってきました。ラオスは以前と変わりなく、店舗は通常に営業しておりマスク姿の人も見ることはありませんでした。ビエンチャンではラオス外務省、森林局、JICAラオス事務所、県事務所などを訪問。バンビエンではカウンターパートのFTC、ファイバモン村を訪問して打ち合わせを行いました。いずれもこのプロジェクトを歓迎していただき、森林局とはMOAの締結を行いました。



また、日本の技術協力で植樹し6年前に会で間伐を実施した30年生の森林に、ツーリズムのモデルコースを設定して踏査を行いました。地元の村人たちもこのプロジェクトを共同で行うことに期待をしており、5月にはファイバモン村有林で植樹祭を行うことになりました。植樹ツアーを企画（公募）しますので、会員の皆様の参加をお待ちしています。

★ラオス植樹ツアーの参加者募集

植樹祭は5/22（月）に、日本からの公募ツアー参加者と地元の村人や小中学校生徒などと共同で行うことにしています。ツアーの標準行程は、3泊5日（1泊機内）で、希望される方はどなたでも参加することができます。

成田から出発の場合は、20日（土）に成田を発ってビエンチャンのワットタイ国際空港着、21日（日）バンビエンに移動。22日（月）に植樹祭。23（火）夜ワットタイ空港発の便で24日（水）早朝に成田着となります。参加費は約2万円（食事、ホテル、移動代を含む）、往復の航空券は各自でとっていただくことにしています。募集15人、申し込みは3月末締め切り（先着順）です。



木育班の活動

2022年3月に立ち上げた木育班の活動は、森林整備のために必要な作業を行う定例作業と違い、高尾グリーンセンターや周辺の森林を活用して挑戦したいこと、作ってみたいこと、また、森林体験に来られる方に体験して欲しいことなどを、それぞれ自由に行っています。その内の草木染・ツリークライミングについて紹介します。



草木染

草木染のおおまかな手順は、○植物の色素を煮だして染液を作る、○布を染液につけて染める、○色を定着させるため媒染する、の3工程となります。植物や布地、出したい色により染める時間や温度などを変える必要があります。以前から森林体験に来られた方と晒し木綿の藍染めやクチナシの染色を楽しんでいましたが、もっといろいろな植物を利用した染色にチャレンジしようと、まずは赤紫蘇を使ってみると、濃いピンク色にきれいに染まりました。が、洗濯すると元の白い晒し木綿に。木綿など植物由来の繊維は、豆乳に浸すなどタンパク質をつけておくとタンパク質と色素が結びついて染まりやすく色落ちしにくくなることを後で知りました。



続いて玉ねぎの皮を使った染色に挑戦。染める布と同量の重さの玉ねぎの皮が必要とのことで、集めるのに2~3か月かかりましたが、染色してみると綺麗なやまぶき色に染まり、集めたかいがありました。

草木染は、染料にする植物や布の種類、模様つけ方などで唯一無二の作品ができ上ります。それぞれの個性が現れる草木染をこれからも楽しみたいと考えています。(道明 真理)

ツリークライミングとは・・・: Tree Climbing: 木登り

ということで文字通り木を登る行為のことです。その手段は素手と素足だけで登る方法からロープや器具を使って登る方法まで多種多様です。木を登る目的もいろいろあります。大別するとレクリエーション(アクティビティ)と後に説明する特殊伐採などの林業系の仕事の二つに分けられます。

登り方のスタイルは各自自由にえらべるものの、一般的にはどちらの場合もやはり安全第一!ロープで安全を確保された状態で登ります。仕事の場合は“ロープ高所作業特別教育”が労働安全衛生法で義務付けられています。ところが、建造物や鉄塔、法面工事と違って木登り(林業)では特殊なケースが多いので特別な技術が必要となります。



特別教育では教えてもらえません。それらの技術はツリーケアの先進国である欧米の書籍やビデオなどから学べます。一部日本語訳されたものも存在します。高尾グリーンクラブでは木育班という専門班を設置し、分科会としてその技術の向上を目指しています。

特殊伐採:アーボリカルチャー: arboriculture は重機が入れない狭い場所や神社や寺、公園などの高木巨木を周りの建造物や地面を傷めないように伐採や剪定する技術です。その作業をする人をアーボリス: Arborist といいます。樹木医と訳されることもありますが、ちょっとイメージが違いますね。やはり欧米が先進国でツリークライミングに加え、ポジショニング(樹上で作業ができる位置確保)リギング(吊り下げ)、スピードライン(搬出集材技術)といった技術です。

レクリエーション(アクティビティ)としてのツリークライミング

高尾グリーンクラブではグリーンセンターに訪れた人たちに周辺の樹木を利用して安全にツリークライミング体験を楽しんでもらえるように準備中です。Coming soon~♪

(川上 智)





ドングリクッキー作りに挑戦



縄文時代の人々は身近な山野のドングリを拾い、粉にして主食にしていました。

石でたたき実を取り出し、石皿と石槌で砕き粉にする。水にさらし数日後上澄みを捨てる。これを繰り返してあく抜きをする。

粉に野鳥の卵、はちみつ、エゴマなどを混ぜ、クッキー状に形を整える。

火をおこし遠火の石の上で焼くと出来上がり。

早速試してみました。一般にドングリにはあくがありますので、あくがないマテバシイで。

木槌でたたきふるいにかけて粉にする。(なかなか根気のいる仕事)

普通のクッキーを作る要領でバター、砂糖、卵を混ぜ、冷蔵庫で1、2時間寝かせる。

型抜きしてオーブンで焼く。

山岳会埼玉支部の方々に試食してもらったところ、口々に「美味しい」の声が。

美味しいのは、バター、卵、砂糖のせいでしょうが、小麦粉の代用になることは確認出来ました。時あたかも輸入小麦粉の値段が高騰しているとき、身近なものに目を向けてみるのも意義があるかもしれません。野草や木の実など自然と協調した生活もいいものです。(千谷 恵子)



ナラ枯れ(ブナ科樹木萁周病)

山や公園で木々が緑の葉を広げている頃、枯木となったコナラを見かけることが多くあります。センター付近でも、巣箱を掛けたコナラや崩落地付近のコナラの根元にフラス(木くず、虫の排泄物)が落ちているのがみられます。調べてみました。

1934年に南九州で発生、1980年代以降急速に拡大し、秋田、宮城、岩手、青森に拡大、1960年代燃料革命後、放置された樹木が太くなりカシナガの繁殖場所になった。2008年頃ピークとなりその後減少したが、ここ数年再発生し、東京都の調査によると、3年前400本、昨年1100本と3倍近くに被害が出ている。多摩丘陵に多く見られるという。

なら枯れについて林野庁の説明によると、体長5mmくらいの甲虫カシノナガキクイムシ(カシナガ)が媒介する「ラファエレア菌」通称ナラ菌によりミズナラ、

コナラなどが集団的に枯損する現象。カシナガのメスの背中に「菌のう」という菌を貯蔵する器官があり、そこにナラ菌を入れて木から木へと移っていく。6~7月 少数のオスが穿入しフェロモンを出すと、7~8月 多数の虫が集まり集中的に穿入し、ナラ菌が蔓延した木は1~2週間で枯れることもあり、中にはカシナガが大繁殖。越冬した後の6月頃、木の中で蛹化し羽化した新成虫がまた飛び出し新たな木に穿入していく。

カシナガはハチやアリに近い生活を営み、親が幼虫を育て、最初に育った幼虫が次に生まれた幼虫を育て、次々に育てていくため急速に繁殖していくという厄介な虫である。

巨樹や老木が被害を受けやすいため、大径木を伐採し森林の若返り化を図り未然に防ぐことが必要という。

処理方法としては11月下旬から5月末に伐採し焼却するか、粘着シートを張る以外にはなさそうで、どこまで広がっていくのか不安である。

(千谷 恵子)



コシダ出現！

コシダが出現しました。

コシダは東京都の絶滅危惧植物 I B (EN) に指定されている南方系のシダ植物ですが、その生育が今年4月に3号路で確認されました。その後、5か所の自生地が相次いで判明し、同所に以前は見られなかっただけに驚きです。ウラジロ (NT) やホラシノブ (EN) の自生地も最近急拡大しているようで、温暖化の影響と思われます。(龍)



コシダ



ウラジロ



ホラシノブ



高尾グリーンセンター利用案内



自然とのふれあいや学びの場に適した環境です。

グループ活動や各種体験のための施設としてご利用ください。10名以上の貸切利用で予約を受け付けています。

ご希望により高尾グリーン倶楽部のメンバーが自然体験や間伐作業体験などのお世話をします。

利用料金

- ・宿泊利用料金：大人 3,300 円、子ども 2,300 円
- ・日帰り利用料金：大人 1,000 円、子ども 500 円

施設概要

- ・宿泊室 4 部屋 (和 2 室、洋 2 室) 定員 23 名、集会室 40 人収容、調理室、浴室 2、野外バーベキュー施設、駐車場 10 台
- ・調理用の什器類、バーベキュー用品等は一式そろっており、自由にお使いいただけますが、食材はすべて持ち込みです。
- ・上水道は、2017 年に新しく掘削されたおいしい井戸水です。
- ・森林作業体験は原則有料 (インストラクター 1 人当たり 4,000 円) ですが、青少年等は減免措置あり、ご相談ください。
- ・詳しくはホームページをご参照ください。

<http://takao-green-club.pepper.jp/>

高尾グリーン倶楽部 森林ボランティア会員募集中!!!

高尾グリーン倶楽部は、南高尾山域で森づくり活動を行っているボランティア団体です。

“多様で豊かな森の再生”を目指して植樹や間伐などの森林整備活動を行っています。

また、小中高生徒や学生、一般市民の皆様、グリーンセンターの利用者や市民の皆様を対象に作業体験を支援する活動を行っています。あなたも活動に参加し、私たちと一緒に汗を流しませんか。

活動日：毎月第 1 日曜日 9:00 ~ 15:00 集合時間：9:00 グリーンセンター集合

参加申し込み：Email ryu-kun@jcom.zaq.ne.jp Tel 090-4373-1555 龍 久仁人 宛

編集後記

2022 年後半も楽しい活動が続きました。木育、ツリーライミングなど新しい活動が展開し、体験会にも取り入れる準備が進んでいます。体験活動で植えられた苗木がしっかり根付き、一步でも理想の森に近づいていきますように 2023 年も力を合わせていきましょう。

- ・てのひらに朝の光を掬い上げ 平穏であれと今日は元旦
- ・空に向かい伸びよ伸びよ森の木々 風にさやく葉枝いっぱいにして

編集委員 千谷 恵子

